

平成30年度和裁士技能検定（2級）学科試験解答

実施日：平成31年3月10日
所用時間：60分

(1) 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよくわかるように記入して裁断図を書きなさい。(裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入) (配点各問6点)

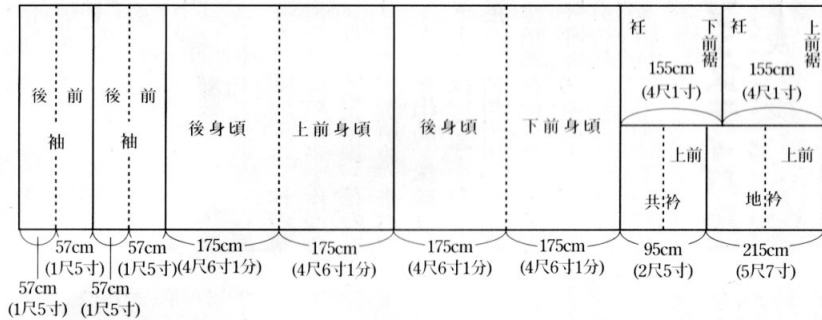
① 並幅物12 m 40 cm (3丈2尺6寸5分) の反物で本裁女物長着を下記寸法で追い裁ちにしたい。

裁断図と各部の寸法と名称を記入しなさい。

身丈背より出来上がり165 cm (4尺3寸5分)・袖丈出来上がり53 cm (1尺4寸)

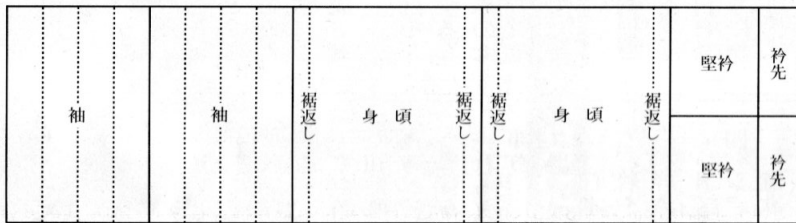
線越3 cm (8分)・裾下(衿下)出来上がり81.5 cm (2尺1寸5分)・他は標準寸法とする。

(注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。



② 並幅物12m (3丈1尺7寸) の反物で本裁女物長襦袢を作りたい。

裁断図を記入しなさい。



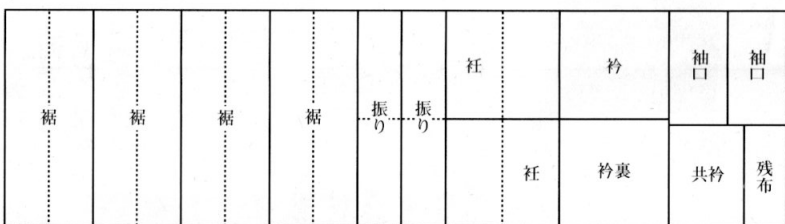
③ 並幅物3.2m (8尺5寸) の裏地で、女物長着の裾回し(八掛)を裁ちたい。

裁断図を記入しなさい。

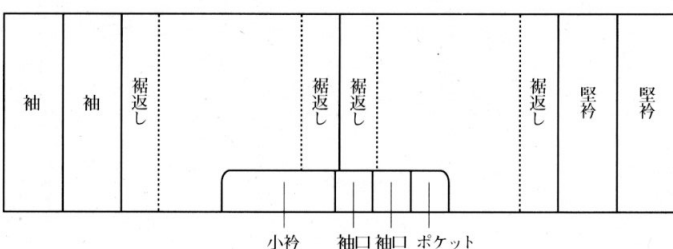


④ 並幅物11.8 m (3丈1尺2寸) で留袖用比翼を作りたい。裁断図を記入しなさい。

ただし、袖は口、振りとし、衿裏共布とする。



⑤ 並幅物10m (2丈6尺4寸) で道行衿袷半コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。



(2) 次の各問の文章が正しい場合には○印、誤っている場合には×印を所定の位置につけなさい。(配点各問2点)

- (○) 1. 一越ちりめんとは緯糸に左撚りと右撚りを交互に織り込んだもので、二本おきに織り込んだものを二越ちりめんという。
- (○) 2. ポリエステル系合成繊維のポリエステルは帯電性があり、汚れが付きやすい。
- (×) 3. ①絞り浴衣、②上布、③御召し、④緋、は先染めものである。
- (×) 4. 絹織物の中で綾織物には、黄八丈、御召し、袖、パレスなどがある。
- (×) 5. 色の三原色は赤、緑、紫で、光の三原色は赤、黄、青である。
- (○) 6. 覗き紋とは丸い輪(陰)の下部または上部に紋の一部を覗かせた紋である。
- (×) 7. 総絞りの裏打ちは、共糸で裏打ちしなければならない。
- (×) 8. 石持に陽紋は染められるが、陰紋は染められない。
- (○) 9. 越後上布、能登上布は織り上げてから雪に晒したものが高級である。
- (×) 10. 有松絞、博多絞りは主として絹布に絞られる。
- (×) 11. 経帷子(きょうかたびら)は僧侶が読経のときに袈裟の下に着る白衣である。
- (×) 12. 長襦袢の後身幅、前身幅は、きもの下に着るので、きものそれより狭くするのがよい。
- (○) 13. 横段柄を肥満体の人に仕立てる場合は、柄を並べないほうがよい。
- (○) 14. 男物着丈の標準寸法は、身長より25～27cm短くする。
- (×) 15. 男物羽織の抱き紋の位置は、反物の巾の中央にある。
- (○) 16. 柄裁ちをする場合、長着は上前の前身頃および胸にポイントを置き、羽織は後身にポイントを置く。
- (×) 17. 千代田衿のクートの小衿丈は、並巾で85cmあればよい。
- (○) 18. 袋帯や名古屋帯を締めるとき、胴(手)は「わ」を下にして締める。
- (×) 19. 帯もきものと同様に、正式礼装用として格式が高いのは、織りの帯よりも染めの帯である。
- (×) 20. 男子礼装は黒羽二重紋付き長着二枚重ねに袴を付け、羽織も黒羽二重の染め抜き五つ紋に黒紐を付ける。
- (○) 21. 男物長着の内揚げ位置は後より前を低くするのが普通であり、その位置は帯の下に隠れるような高さがよく、普通、肩より測って着丈の4/10位置が下がった位置が適当である。
- (×) 22. 男児五歳の祝着の袖は振りを付けて、丸味を付ける。
- (×) 23. 和裁で使用されている手縫針で、4の3とか4の2という呼び方は、JISで規定された名称である。
- (○) 24. アイロン、コテなどで火傷した場合、応急処置としては、水で局部を冷やすのが普通である。
- (○) 25. 被布は室内着として用いるが、被布衿コートは室内で脱ぐのが礼儀である。
- (○) 26. 糸を精練して織るものを練り織物と言い、糸を染めて織るものは先染め物であり、両者とも先練り物と呼ばれている。
- (×) 27. 一般に付け紐を衿に付ける場合、男児のものは縫い目を上にし、女兒用のものは縫い目を下にして付ける。
- (×) 28. 袴の紐つぎ合わせなどに用いられる補綴の方法は、織り込みつきである。
- (○) 29. 裁ち板には、柳、朴、桂、銀杏などのよく枯れたものが適している。
- (×) 30. 江戸小紋は、徳川中期に名付けられた名称である。
- (×) 31. 被布衿コートは、裾を付けて仕立てるのが普通である。
- (○) 32. 二部式雨コートの下着丈は、腰骨の上8cmから裾はくるぶしが隠れるくらいが適当である。
- (×) 33. 現在着用されている女袴の起源は、江戸時代末期である。
- (×) 34. 女物無地一つ紋の長着は、絵付絵羽織を着なければ略礼装にはならない。
- (×) 35. 打掛はかいどりとも言い、その模様は飛柄総模様である。